

いけんひろば
～「こども大綱」「こどもまんなか社会」を
いっしょに考えよう～

(オンライン・対面・チャット・アンケート・出向く型)

報告資料

開催概要

①テーマ

- 「こども大綱」「こどもまんなか社会」をいっしょに考えよう

②担当省庁

- こども家庭庁

③開催方法等

この「いけんひろば」は、こども大綱の策定に向けた『こども・若者、子育て当事者等の意見を聴く取組』の中でおこないました。
この取組全体は、「こども家庭審議会基本政策部会」の中で報告されました。くわしくは、こちらから見ることができます。

URL :

https://www.cfa.go.jp/councils/shingikai/kihon_seisaku/bZi2mq96/

開催手法	開催日時	開催場所 ・ 使用ツール	参加人数／グループ数	参加対象者
オンライン	令和5年10月21日（土）10:00～12:00	オンライン（Webex）	25名／6グループ	ぷらすメンバー登録者 （小学生～社会人年代）
対面	令和5年10月21日（土）14:00～16:00	こども家庭庁	26名／6グループ	
チャット	令和5年10月20日（金）～21日（土）	LINE オープンチャット	16名／3グループ	
	令和5年10月22日（日）～23日（月）	LINE オープンチャット	18名／3グループ	
アンケート	令和5年10月03日（火）～19日（木）	Webアンケート （Google Forms）	有効回答 133件	
出向く型	令和5年10月17日（火）	児童養護施設	9名／2グループ	小学生～高校生世代 （児童養護施設の入所者）
	令和5年10月24日（火）	オンライン	25名／5グループ	小学生～22歳 （ひとり親家庭のこども・若者）
	令和5年10月25日（水）	障害児支援施設	5名／1グループ	小学生 （障害児支援施設の利用者）
	令和5年10月27日（金）	児童館	16名	小学生 （児童館の利用者）

ヒアリング内容の詳細

#	項目	ヒアリング内容
1	「こどもまんなか社会」について	<ul style="list-style-type: none"> こども大綱が目指す「こどもまんなか社会」について、どのように思いますか。 どんなところがいいと思いますか／どんなところをもっとよくすることができると思いますか。 ほかにどのようなことがあったらいいと思いますか。
2	「こどもにかかわる取組を進めていくときに大切にすること（基本的な方針）」について	<ul style="list-style-type: none"> 国がこどもにかかわる取組を進めていくときに大切にすることについて、どのように思いますか。 どんなところがいいと思いますか／どんなところをもっとよくすることができると思いますか。 ほかにどんなことを大切にしてほしいと思いますか。
3	「取り組むこと（重要事項）」について	<ul style="list-style-type: none"> 〔すべての年れいのこども・若者のための取組〕についてどのように思いますか。 〔学童期・思春期（6～18才くらい）のこどものための取組〕についてどのように思いますか。 〔青年期（18才くらいから）の若者のための取組〕についてどのように思いますか。 〔子育てをしている人のための取組〕についてどのように思いますか。 どんなところがいいと思いますか／どんなところをもっとよくすることができると思いますか。 ほかにどんなことに取り組んだらいいと思いますか。
4	こども・若者の社会参画・意見反映のための取組	<ul style="list-style-type: none"> こども・若者とおとなと一緒に社会をつくること（社会参画）、こども・若者も社会の一員として声をあげることができ、その声が社会に活かされることを進めるための取組についてどう思いますか。
5	施策の共通の基盤・施策の推進体制について	<ul style="list-style-type: none"> 中間整理に書かれていることを読んで思ったことがあれば、自由に書いてください。

資料についての補記

P6から、主な意見とその意見が出たグループの構成年代、いけんひろばの開催手法を掲載しています。（例：発言（〇〇世代・開催手法））
本いけんひろばでは参加者を以下のグループに分け、意見交換を行いました。

開催形式		グループ名	世代	人数
オンライン回		1	小学5年生～中学2年生	5人
		2	小学3年生～中学2年生	5人
		3	高校生世代	4人
		4	大学生～社会人世代	3人
		5	社会人世代	3人
		6	大学生～社会人世代	5人
対面回		A-1	小学1年生～小学3年生	4人
		A-2	中学1年生～高校生世代	3人
		B-1	小学6年生～中学1年生	2人
		B-2	大学生～社会人世代	5人
		C-1	高校生～大学生世代	6人
		C-2	大学生～社会人世代	6人
チャット回		A	中学1年生～高校生世代	5人
		B	中学2年生～高校生世代	6人
		C	大学生～社会人世代	5人
		D	中学1年生～高校生世代	6人
		E	大学生～社会人世代	6人
		F	大学生～社会人世代	6人
アンケート回		-	小学生から社会人世代	133人
出向く型	10月17日（火）	1	小学生	4人
		2	中学生～高校生世代	5人
	10月24日（火）	1	小学2年生～中学1年生	2人
		2	中学生～高校生世代	5人
		3	高校生世代	5人
		4	高校生～大学生世代	6人
		4	18～22歳	5人
	10月25日（水）	-	小学生	5人
	10月27日（金）	-	小学生	16人

目次

1. こども大綱全体について
2. こどもまんなか社会について
3. 基本的な方針について
4. ライフステージ縦断の事項について
5. 学童期・思春期の事項について
6. 青年期の事項について
7. 子育て当事者への支援について
8. こども若者の社会参画・意見反映について
9. 施策の共通の基盤・施策の推進体制について
10. 参加者アンケート（オンライン回、対面回、チャット回、児童養護施設、ひとり親施設で実施）

※こども大綱の策定に向けた中間整理の項目のうち、「こどもの誕生前から幼児期までの事項」は本いけんひろばでは扱っていないため、この報告資料には記載していません。



具体的な施策について

- 具体的にどんなことをするのかを示したほうが良いと思う。(23歳以上・アンケート)
- こども、若者が主体的に取り上げられているという事が良くわかるのでいいと思う。でも、小さな子どもにもわかってもらえるようにするには、具体例などを追加した方がいい。(13~15歳・アンケート)
- 生活に困難を抱える子どもたちの声が出しにくい状態が続いていると思うので、アウトリーチの具体策を盛り込んでほしい。(16~18歳・アンケート)
- 具体的に格差についてどんなものか言及したり、貧困とは具体的にどんなものかについて言及しなければ、自分たちは違うという認識のままの人も多くなると思う。(19~22歳・アンケート)

大綱の位置づけについて



- こども、若者となっているだけなので、ぼくのような障害者が「障害者だから仕方ない」と諦めなくても良いようにしてほしい。(6~9歳・アンケート)
- 子どもの政策がずれないように大切なことを決めておくのはとてもいいと思う。(13~15歳・アンケート)

共働き・子育てについて



- 「子育て」という言葉に違和感を感じる。死別など例外はあるが、未婚、既婚に関わらず本来父親と母親の両者が経済的にも直接的にも育児に関わるべき。また、共働きが家族のあるべき姿、理想のような目標の立て方に違和感を覚える。専業主婦夫を望む方がいれば、それも実現できるというのが個々の思想を尊重しているのではないか。(23歳以上・アンケート)
- ひとり親家庭や身近に頼る人のいない家庭でも、そうしたいと考えれば労働時間を調整してこどもの傍に居られるように、子育てしやすい働き方改革や所得保障を進めることなどが必要だと思う。(大学生~社会人世代・チャット)

実現してほしい社会について

幸せ

- 幸せに、心豊かに過ごせる世の中だと良いと思う。社会的ステータスはそれぞれ違えど、心の豊かさを実現出来ると幸福な世の中を実現出来ると思う。(不明・チャット)
- こどもや若者を誰一人取り残さず、年代や性別などを問わず幸せを感じることのできる社会。(不明・オンライン)
- 全てのこどもたちが幸せな社会。(不明・対面)
- 誰もが幸せになってほしい。(小学生・出向く型)
- こどもが大人になりたいと思えるように、こどもが大人になってからも幸せで健やかな生活を送ることができるような社会の実現が必要だと思います。(23歳以上・アンケート)

悩みや不安を誰かに話したりできる

- 悩みや不安を安心して誰かに話したり共有し、個々人のケアができる社会。(不明・チャット)
- 相談すべきことをきちんと問題として捉えない限り、悩みを自覚して相談に行くのは難しい。自己肯定感が低く自信がない人でも、どんなことも相談できる環境づくりが必要。(高校生～大学生・対面)
- こども若者に限らず、それぞれの個性が尊重され、不安に思うことを相談出来る環境の実現は、多くの人のウェルビーイングに繋がると思いました。(中学生～高校生・高専生・チャット)



こども・若者がやりたいことを自分で選択できる

- こどもと若者がやりたいことを自分で選択でき、選択をするにあたり金銭的問題から諦めることのない社会。(不明・チャット)
- 私も親にやりたいこと、学びたいことを潰されました。だからこそ自分が人として尊重され、誰もが生まれながら持っているはずの権利がそれがたとえ親であっても先生であっても侵害されず、保障されるべきだと強く感じます。(大学生・20代・チャット)
- 少子高齢化が進み、こどもの数が少なくなっているからこそ、こどものことをしっかり考えてほしいと思う。こどもが自由にやりたいことをできる社会であってほしいと思う。(13～15歳・アンケート)
- こどもがどんなことにも挑戦できる世の中 (不明・チャット)
- こどもと若者の個性を尊重してほしい。こどもや若者の個性を見つけて、こども・若者のやりたいこと・好きなことをやらせて伸ばすようなサポートをしてほしい。(小中学生・対面)
- 大人はこどもの能力を甘く見てはいけけない。どうせできないだろうとかこどもだから出来ないだろうと決めつけてほしくない。(小中学生・対面)



実現してほしい社会について

自分らしさを大切にできる

- ひとりひとり大切ににされ自分らしく生きられ健やかに育っていける社会という言葉がいいなと思った（10～12歳・アンケート）
- 「個性や多様性が尊重され、尊厳が重んじられ、自分らしく、ひとりひとりが思う幸福な生活ができる」という箇所が、こどもたちが1日の大半を過ごす学校の、時代錯誤な校則に縛られることなく自己を表現できる将来に繋がると思い、良いと感じた。（19～22歳・アンケート）
- 今はなんか団体主義的なところがあるように感じて、それに入れたい子はダメみたいな風潮を私自身感じてきましたが、"みんな違ってみんないい"という言葉が日本にはあり、それを本当にそう思える社会の構築が出来たらいいですね！（大学生・20代・チャット）

自分が受け入れられる

- わたしは「心理的安全性」が大切だと思います！家庭だけでなく、学校やまちにおいても、「受け入れられる」経験は大切な気がしました！（大学生・20代・チャット）
- 他の人に否定されない。（10～12歳・アンケート）
- 仲がいい友達や、否定しない友達や、否定されても何も感じない人がいれば意見を言いやすい。（小中学生・出向く型）
- 自分が一生懸命に考えた意見が受け入れられたら自信や自己肯定感につながるし、逆にへらへら笑われたら二度と意見を言えなくなると思います…意見が通るかは別としても受け入れられることは大事ですね（大学生・20代・チャット）
- 勇気を出して助けを求めてもそこで傷ついてしまったらその後は助けを出しづらくなるし、自分の意見を言って否定されたら自分の意見を言いつらくなるし……。こどもの頃に自分のことを真摯に受け入れてもらった、という経験が大事だと思います。周りの大人によってそういう経験があるかどうかが変わってくるのでせめて教育環境を整えてほしいです。（大学生・20代・チャット）

意見が尊重される

- 全てのこどもの声が尊重されて、全てのこどもが生きることには希望を持てる社会（不明・チャット）
- こども1人1人の意見が取りおかれずにこどもの意見が反映されてほしいです。（不明・対面）
- 「こどもの意見を聞いてあげる」という上から目線ではなく、ともに手を取り合っていくという謙虚な姿勢が必要だと思う。（19～22歳・アンケート）
- 大人が話を聞こう！って思ってくれることが大事。こどもはもう意見をたくさん持つてるから。（6～9歳・アンケート）
- こどもはまだおさないからという事もあって、まともに意見を受け入れてくれません。なので、「こどもだから」ということをなくしていきたいです。（10～12歳・アンケート）

ひきこもり支援について

- 職業訓練、経験はスキルアップ、キャリアアップにもなるし、例えば引きこもり児童の社会復帰の助力にもなると思う。もっと、多職種と触れ合う機会や体験する機会が拡充されればいいなと思う。(大学生～社会人世代・チャット)
- 不登校により高校を退学してしまった人が人生のレールから外れてしまい、そのまま引きこもりになって数年経った後でも本人にやる気があれば就職ができるまで支援して欲しい。(12～15歳・アンケート)

地域のニーズについて

- 既存の居場所づくりのやり方や運営の仕方を見直して、その地域の中にある本当のニーズと合わせる必要がある。場所を増やすことによる居場所の多様性の拡充と、1つ1つの場所で受け止められる人の多様性の拡充の両輪が必要な気がする。(大学生～社会人世代・チャット)

政策形成への若者の参画

- 政策決定過程にこども、若者の参加を促進させると書いてあるのは良いと思った。(23歳以上・アンケート)
- 一部の中学生・高校生が行政に参加して国を動かすことができれば良いと思う。中学生・高校生の代表が少しずつ参加することで、「こども・若者も国を作ることに携わる」が基本的な方針に付け加わるというイメージがある。(小中学生・対面)

地域でこども・若者に関わる人について

- 「国や地方自治体、地域でこども・若者にかかわる人たち」と言われても、誰だか分からない。(小中学生・対面)
- こどもと直接的に関わる保育者・教師への支援の視点があるといいと思う。(19～22歳・アンケート)



家族の価値観の多様化

- 多様性を尊重しそれぞれが生きやすい社会にするという所は良いと思った。しかし若者で結婚や子育てをしない人にも生きやすい社会にするために社会全体で支えていくことも考える必要があると感じた。(大学生～社会人世代・チャット)
- 多様な価値観、考え方を大前提としてとあるが 結婚、子育てをするのが良いとされる文脈に感じた。性的マイノリティも尊重すべき。(16～18歳・アンケート)
- 若い世代ではもっと自由に考えている人も多いと思うので、事実婚や、養子を持つ同性パートナーでも子育て支援を受けられたり出来たらよりよいと思う。(16～18歳・アンケート)
- 「主体的な選択」の内容が「結婚するか／しないか」「子どもを産み、育てるか／そうしないか」という、既存の社会制度を前提とした上で単純な二項対立によって表現されている点については、少し気になった。「主体的な選択」の内容については、もっともっと「こどもまんなか」にしていきたい。(23歳以上・アンケート)

困ったときの支援について

- こまっていること・大変なことを人に相談しやすいようにしてほしい。(10～12歳・アンケート)
- 大人になるまでずっと支えるとは教育のことなのか、健康に関するものなのかわからない。(13～15歳・アンケート)
- 地域格差を作らないということを大切にしてほしい。自治体にお金があるか、市長が子ども施策に力を入れるかによって格差が出ると、どこに生まれるかの運が重要な社会になってしまうと思う。(大学生～社会人世代・チャット)

こどもの権利の保障について

- こどもといっても、貧困家庭の人から、裕福な家に生まれた人、外国人、性的少数者など、色々な人がいる。誰ひとり取り残さないためには、多様なバックグラウンドをもったこどもから意見を聞くことも重視しないとけないと感じた。(大学生～社会人世代・チャット)



こどもの権利について

- 権利主体の考え方を各個人が持っているようにしないといけないと思う。誰が権利を守ってくれるかではなく、自分自身でまず認識する段階ということにもう少し視点を向けて書いてほしいと思う。国や自治体がこども・若者が生まれながらにもっている権利を守るということを宣言するのも重要だが、こども・若者が権利を守られるということを自分たちが知って自覚するということがあわせて大事だと思う。
(大学生～社会人世代・オンライン)
- こども家庭庁の周りだけでなく、日本の中のみならず、世界中のみなさんにこどもに権利があるということを普及していかないとけない。(社会人世代・オンライン)
- 大人たちは、こどもに権利があることを分かっていない訳ではないと思う。ただ、こどもの権利に関して大人に教育する機会がないため、必要だと思う。(高校生～大学生世代・対面)

遊びや体験について

- お金のある家庭の子ばかりが様々な体験ができているように感じるので、こどもが等しく様々な体験できるような支援も大切だと思う。
(高校生世代・出向く型)

こどもまんなかまちづくりについて

- ボール遊びができない公園がある。そういう場所で、少しでもいいのでボール遊びができるようになったらいいと思う。
(小中学生・出向く型)



こども・若者が活躍できる機会づくりについて

- こどもの才能を見つけてほしい。足が速い、しゃべるのが上手などの個々の能力を伸ばしてあげられる人がいると良い。
(小中学生・対面)

外国につながるのあるこども

- 外国にルーツのある子どもや若者も支えて貰えるのか。日本で介護職に就きたい東南アジアの若者が低賃金になって困る事がないうような施設を視察したり話を聞いて支援してあげて欲しい。
(13～15歳・アンケート)



こどもの貧困対策について

- 塾にも奨学金を出してほしいと思う。お金が出れば選択肢が増える子もいるのでは無いか。(大学生～社会人世代・チャット)
- とてもお金がかかるので、塾に行ける支援をしてほしい。(中学生～高校生世代・出向く型)
- 塾の奨学金賛成である・塾に限らず、英会話やスポーツなどこどもの「習い事」に使える奨学金制度があるといいなと感じた。(大学生～社会人世代・チャット)
- お金の心配をしないで部活動に参加出来る補助がほしい。(10～12歳・アンケート)
- 部活動の活動費への支援があるといいなと思う。(中学生～高校生世代・出向く型)
- スポーツや音楽を頑張っている人もいるので、勉強以外の分野で頑張っている人の支援も充実させてほしい。取組の中に、教育だけでなくスポーツなどを頑張る人の支援も加えた方が良いと思う。(高校生世代・出向く型)
- 弟は体操競技をやっており、全国大会にも出られるレベルの選手である。しかし、遠征の際に1泊で15万もかかるなど、家の経済状況を見ると金銭的な負担が大きい。スポーツなどで夢に挑戦している人にも手厚い支援をして欲しい。(高校生世代・出向く型)

難病の支援について

- 自分は指定難病にかかっていて、自治体から助成してもらって通院している。地方だと助成金の額が低かったり、助成金の運用ができなくなってしまうことがあると聞いていて、心苦しい。そういう地域の差がないといいなと思う。(社会人世代・オンライン)

大学生生活への支援について

- 大学進学を考える中でかかるお金が高く、住んでいる地域で選べる学部も違う。授業料だけがかかるお金ではない。公立でも授業料は高いので上手く分配をしてほしい。(高校生世代・オンライン)
- 大学の費用面で、もう少し安くしたり、国からの支援があったりすると助かると思う。(大学生～社会人世代・オンライン)



障害児支援について

- 精神疾患や障がいがある人は、仕事を見つけることも難しい。精神疾患や障がいがある人たちが就職しやすいように企業側の配慮・理解も必要だと思う。
(高校生世代・オンライン)
- 国は精神疾患や発達障がいのある人、子どもの頃に虐待を受けた人などが必要な対応を受けられるよう、詳しい知識や情報を企業に周知すると良いと思う。
(高校生世代・オンライン)
- 身体的障害をもっている方への支援内容を決めつけるのではなく、ひとりひとりの病気の特徴をみて、そのひとのニーズにあった支援・サポートをするのが大事だと思う。
(高校生～大学生世代・対面)

虐待防止対策について

- 虐待からは絶対を守るというような内容があってもいいと思った。
(13～15歳・アンケート)
- 虐待は加害者と距離を置いてからが大変。当事者が治療にアクセスできるような整備が重要だと思う。
(大学生～社会人世代・オンライン)
- 虐待を受けた人には物理的な支援と精神的な支援の両方から支援することが重要ではないか。
(大学生～社会人世代・オンライン)

社会的養護について

- 親の目を盗んでの通報が難しいこと、通報されても適切な対応がなされないことが問題だと思うので、こどもだけで機関に繋がれること、繋がれば適切な支援が受けられることが必要だと思う。
(大学生～社会人世代・チャット)

こどもの自殺対策について

- 極度に追い込まれる状況を問題視し、改善しようとしているのであれば、更に追い込んでしまう「自殺を防止する」といった表現は不適當である。(不明・出向く型)



教育格差について

- 自治体の施策で、ある自治体の住民は指定の大学の学費は無料にしたり、安くしたりするというニュースを観た。自治体によって教育に対する対応が違う例が最近見られるようになり、嫌だと思う。さらに、ある県に住んでいる人は大学に通えるがその県に住んでいない人はお金がないから大学に通えないといった、教育格差・学歴格差を国で何とかしてほしいと思う。(大学生～社会人世代・オンライン)



オンライン授業について

- オンライン授業が全国どの地域でもできるようになったり、全ての学校でオンライン授業ができたりする環境が欲しい。(中学生～高校生世代・チャット)
- 学校に行きたくないときはある。コロナ禍で、学校に行かなくても勉強できる環境が少し整い始めていたが、現在はまたなくなってしまった。場所に縛られない学習環境を確保してほしい。(小中学生・対面)

こどもに対する暴力について

- 児童相談所は、暴力が発生しないと動いてくれないと聞いたことがある。暴力が発生していなくても、児童相談所に訴えている時点で家の中では精神的圧力がかかっているの、すぐに動けるような体制を整えてほしい。(高校生世代・オンライン)

デジタル教科書

- 紙代がかからないよう、教科書をデジタル化したらよいと思う。(中学生～高校生世代・対面)
- 教科書をデジタル化すれば荷物の負担も減っていいと思う。ただ、紙の教科書の方が使い慣れている世代もいるので、世代によって紙とデジタルを使い分けできたらよいと思う。(中学生～高校生世代・対面)

居場所としての学校

- 学校を安心して過ごし学べる場所にするために先生の負担を減らしたり多様な人を雇って子供の学びの場を増やした方がよいと思う。また子供がありのままにいられるようにするには学校の規則を厳しくしすぎない方がよいと思う。(大学生～社会人世代・チャット)
- 学校を子供の居場所にするために多様な機関が協力しあうことは大事で良いと感じる。(大学生～社会人世代・チャット)

性教育について

- 性教育に関しても必要だと思う。例えば避妊について座学や動画を見ることはあっても、模型での実践や避妊具自体を見ることはなかった。こちらはデリケートなテーマだが、望まぬ妊娠をしない為にも大切な事だと思っている。(大学生～社会人世代・チャット)

居場所について

- 学校や家庭が居場所になっていない若い人への支援が足りていないと思う。学校に若い人が集まるサークルやいろんな人と集まって話せる支援機関が安全な場所として広まれば良い。（高校生世代・オンライン）
- 学校や家にいたくない人のための居場所をつくることは良いサポートの内容だと思う。（小中学生・対面）

職業教育について

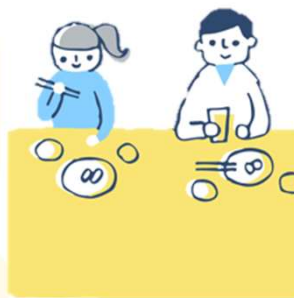
- 高校生の時から、下手したら中学生から自分の進路を決めていかないとやりたい職業に就けないと思うが、もっと社会や職業について知る機会があるといいなと思う。（大学生～社会人世代・チャット回）
- 高校生や大学に入ったばかりの頃であれば、みんなが知っている仕事だけをキャリア教育として扱うのではなく、もっと深いレベルでいろいろな仕事があることに触れたかったなと感じる。（大学生～社会人世代・チャット回）
- 小さいころから仕事について知ることのできる機会を設けてほしい。（中学生～高校生世代・出向く型）

給食無償化について

- 義務教育中の給食費を免除してほしい。（不明・出向く型）

男女差別

- 先生の男女差別がひどい。（小学生・出向く型）



社会人に必要な知識の教育

- 税金をはじめとした自立して生活していく上での知識などについて、もっと学校で学びたかったと思う。（大学生～社会人世代・オンライン）
- 大人になるうえで大切な選挙や法律や税金のことを、もっとくわしく学校で教えることが大事だと思う。例えば、選挙なら具体的な選挙のやり方などを教えたいと思う。（小中学生・オンライン）

いじめ対策

- いじめの予防や早期発見も加えてほしい。世界ではいじめを予防するという考えが浸透して科学的効果が裏付けられている。早期発見よりもまず、教師、保護者、生徒たちに予防プログラムとして授業が必要。（中学生～高校生世代・対面）
- いじめは隠ぺいされる可能性がある。いじめを減らすためには、学校にいじめの対応を任せるのではなく、学校を管理している自治体レベルで常に監視・管理していかなければならないと思う。（中学生～高校生世代・対面）

不登校支援

- 不登校という経験や不登校であることを許容ではなく、もっと受容してもらうことは必要だと思う。そうしてキャリアの選択肢の拡大や進路選択の多様化が進めばいいと思う。（大学生～社会人世代・チャット）
- 一度不登校になっても、また学校に行ってみたいと思ったら戻ることができることができ、就職もできるようなシステムをつくっていけると安心感が得られると思う。いじめを根絶するわけではなく、逃げ場をつくり、元いた場所にも戻っていけるようにするのが大事だと思う。（小中学生・オンライン）

教育相談体制

- スクールカウンセラーがいない時間帯は、支給されているタブレットなどで連絡できる仕組みがあると良いと思う。（大学生～社会人世代・チャット）
- スクールカウンセリングは行くと目立ってしまうので気軽に行けない。また、スクールカウンセリングは放課後に行われていたと思う。なので、昼休みなどに身近な教室の先生に相談し、相談した内容を先生からカウンセリングを専門とする人に伝えて解決方法を教えてもらえるといいと思う。（小中学生・オンライン）



メンタルヘルスについて

- カウンセリングに対する抵抗感がまだまだ日本は大きいと思う。(不明・出向く型)

就職支援

- 記事を書く長期インターンをしてお金をもらうことで、就職活動や就職後にも役に立つという記事を見て、長期インターンが広がれば仕事を選ぶ時にも良いと思った。(高校生世代・オンライン)

キャリアと育児の両立について

- ひとり親家庭の人は育児と仕事のバランスを取るのが大変だと思うので、国や自治体が仕事と育児を両立できるよう支援してほしいと思う。(小中学生・オンライン)
- 結婚選択できない人多くが抱える課題は、結婚式や出産などの一時的なイベントに対する負担ではなく、結婚後・出産後の仕事や育児など、その後が続く生活に関する点にあるのではないか。(大学生～社会人世代・チャット)

青年期の取組について

- 「〔青年期（18才くらいから）の若者のための取組〕」として書いてあるものでは、具体的なイメージを持ってない。(高校生世代・オンライン)



医療費の補助について

- 医療費だけでも中学生、高校生までも無料にしてほしい。（社会人世代・アンケート）



教育費の無償化

- 「高等教育費の無償化」を実現してほしい。（16～18歳・アンケート）

年少扶養控除・所得制限

- 年少扶養控除の復活をお願いしたい。（23歳以上・オンライン）
- 奨学金は所得制限があるので所得制限をなくして親の所得が高くても親が学費を払わないなどの問題を抱えている子に対して奨学金を借りれるようにしてほしい。（不明・オンライン）



教育負担の軽減について

- 学校に通うお金の約70%が両親・保護者による自費負担になっているため、教育を誰もが受けられるように負担は少なくなしてほしい。（13歳～15歳・アンケート）
- 子育てには多額の費用が掛かり、そのせいで特に貧しい家庭などで子供が苦しまざるを得なくなっていることを考えると、大学なども含めた教育無償化なども検討していただきたい。（16歳～18歳・アンケート）

ひとり親について

- 養育費未払いの親へ、勤務先情報を国が把握して、税金のように徴収。それを団体が養育費を受け取れていない親子に分配できる仕組みがあったら良いと思います。また、大学生か社会人かに限定せず、平等に一律子供が22歳まで支払義務があることにしてほしいです。（不明・出向く型）
- 学校に行きたいという当たり前のことがプレシングル家庭では実現されていない。3年以上別居していても手当が支給されなかったりするなど、いわゆる「行政のいじめ」がある。完全なる離婚はしていないプレシングル家庭がなかなか拾い上げてもらえない。（中学生～高校生世代・出向く型）
- 「意見を持てる・意見を言える」が大切だと思う。間接交流（別居している父親との面会交流）について、父親との面会がいやだと言ったら「写真を撮って送ってほしい」と言われた。写真を送るのもいやだと言ったけれど、家庭裁判所に「高校生以上じゃないと意見が通らない」と言われた。（中学生～高校生世代・出向く型）

親へのサポートについて

- 役場や駅など、誰にもわかりやすい場所にこどもも親も集まれる場所をつくって、いつでも集まれるようにするのが良いと思う。こども向けだけでなく、親向けの支援も必要である。こどもの貧困や虐待をなくすには親のサポートも必要だと思う。（社会人世代・オンライン）
- 相談できる場所がたくさんあっても、その場所にいる相談員や、こどもをみってくれる人を確保するのが難しいし、人を確保したところで誤った知識や浅はかな知識で来る人から話を聞いてしまうと悩んでいることも・若者が混乱してしまうと思う。いま世の中にたくさんあるオンラインサロンや、アプリで悩んでいる人がつながれる仕組みみたいなものがあれば、人もいらないし、気軽に相談できる場所が作れると考えた。（社会人世代・オンライン）



仕事と育児の両立について

- 若い人は男性育休を取りたい人が多いかと思う。しかし、40代以上の人から見たら本当に必要なの？と捉えており、若い人が男性育休を取れない雰囲気になっていると感じる。共働き家庭がマジョリティになりつつある今、20年ほど前とは社会背景が大きく異なるので、男性育休は必要不可欠である。若い人が育休を取りやすい、取るのが当然という社会風土醸成の後押しをお願いしたい。（23歳以上・アンケート）
- 特に女性は妊娠や出産によりキャリアが断たれやすく、一度仕事から離れて子育てが落ち着いたなら正社員にもう一度なりたいと思っても難しい場合が多い。男女ともに正規と非正規の垣根を低くして、ライフステージに合わせて柔軟に変えられるようにしてほしい。（23歳以上・アンケート）
- 企業の労働環境に安心・安全の空間がないと、子育てをしながら働くことに対して罪悪感を持ってしまう親が多いと思う。就職活動を考えていくうえで、子育てを支援する環境があるかは重要視している。私生活はもちろん、職場でも誰からも責められることのない安心・安全な環境を確保しないと親や若者たちは結婚を考えづらいのでは。（社会人世代・出向く型）

経済的基盤の確保

- 共働きを前提にしているような記述があるため、共働きではなく、予期せぬ事態で大人1人分の所得しかない状態になっても子育てができるようになどの記述が欲しいと思った。（23歳以上・アンケート）
- 共働きについて、共働きが家族のあるべき姿、理想のような目標の立て方に違和感を覚える。専業主婦夫を望む方がいれば、それも実現できるというのが個々の思想を尊重しているのではないか。（23歳以上・アンケート）

意見表明に対する意欲や関心について

- 意見を表明する子だけを支援するのではなく、意見を表明する過程まで目を向けて、意見を吸い上げてほしい。(大学生～社会人世代・オンライン)

意見を聴く環境づくり

- 一回子どもを放っておいてみてほしい。危なかったら大人に入ってほしいけれど、良かれと思って子どもに声をかけるのではなく、子どもも自分のやり方でやろうとしていると理解してほしい。(小中学生・対面)



地域・社会への意見表明について

- 子どもの意見表明は、今のところいけんぷらすや、近場でいえば生徒会などがあげられると思います。しかし、そういうものにアクセスする人はおおよそその分野に関心があったり、生徒会などは優秀と呼ばれるような子も多かったです。その影で、意見をあげられない(あげる力がない)子どもの意見をどうやって聞くのかについても考えて欲しいです。(19歳～22歳・アンケート)

意見を言いやすい環境づくり

- SNSなどで普段の生活に対する愚痴を募集すると良いと思う。(高校生世代・出向く型)

SOSの受け止めについて

- 家庭環境が正常でない場合、子どもは抑圧され、助けてと言えない、そして物理的にも言えない環境にある場合がある。そういう時、スマホの普及を活用し、電話だけでなく、理想だけで言えば、SNSやアプリなどで子どものSOSの声を拾えるような制度があれば少し声はあげやすくなるのではないかと考えた。(大学生～社会人世代・チャット)
- 子どもの意見はもとより、現在差し迫って起きている子どもからのSOSを受け止められるしくみ(電話相談など)を整えていくといいかもしれない。(16歳～18歳・アンケート)

多様な手法での意見聴取について

- 子どもが直接感じている政策的な不安を当事者の意見として反映していただきたいので、LINEなどを活用した政府調査の導入を望みます。(16～18歳・アンケート)

様々な状況にあって声を聴かれにくい子どもについて

- ヤングケアラーなどの本当に困っていて助けが必要な人はこども家庭庁の意見聴取を知らなかったりとても忙しくて余裕がなかったりする人が多いのではないか。(不明・アンケート)

相談体制の整備

- 24時間対応の電話対応があれば、実際に自殺を考えている人がすぐに相談できていいと思う。文字に起こしている時間ももたない。電話対応の取組がこども家庭庁にもあればいいと思った。(大学生～社会人世代・オンライン)

SOSを求めやすい環境の整備について

- 子どもが安心して、そして助けて欲しい時に助けてと言える環境や仕組み、制度を拡充する必要があると思う。(大学生～社会人世代・チャット)

関係機関連携について

- 教師や児童に問題を押し付けるのではなく、学校や自治体で問題を解決してくれたら生徒も安心できると思う。いろんな組織や関係者が、良いかたちで「連帯責任」「連携」をとってくれたらいいなと思う。(小中学生・オンライン)

必要な人に届けるための情報発信について

- 本当に苦しんでいる人はSNSを使えない場合が多いため情報が届かないと思う。回覧板や自治体のおたよりなどアナログな情報発信も内容に含めた方がいい。(高校生世代・出向く型)

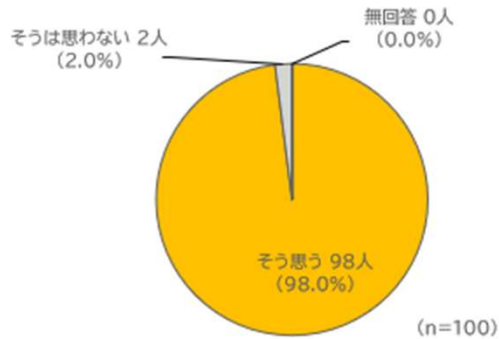
財源の確保について

- 地域格差を作らないということを大切にしてほしい。自治体にお金があるか、市長がこども施策に力を入れるかによって格差が出ると、どこに生まれるかの運が重要な社会になってしまうと思う。(大学生～社会人世代・チャット)
- 安定的な財源とありますが、ここは増税であってつもりか。多くの国民の反感を買う増税ではなく、ぜひこども国債を発行すべきかと思う。(16～18歳・アンケート)



10.参加者アンケート(一部を抜粋して掲載)

「いけんひろば」に参加してよかったと思いますか？

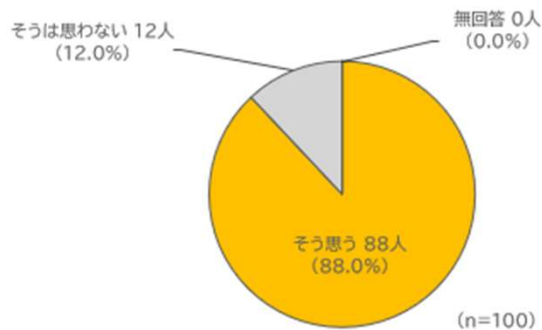


「そう思う」の理由(自由回答)

- 参加した他の方の意見を聞いている中で、自分の考えが深まったと感じたから。また、他の方の意見を通じて自分の意見を整理でき、自分の意見を伝えることができたから。(オンライン)
- 自分の意見が国に伝わることはなかなかない機会でもとてもやりがいがあった。また、話し合いが楽しかった。(チャット)
- いろいろな人の意見があることが分かったし、同世代同士共感できる部分をたくさん聞いてもらったのですごく良い会だったと思うから。(出向く型)



今日の「いけんひろば」では、自分が話したいと思ったことを言えましたか？



話したいと思ったことを言うのがむずかしかった理由や、言い足りなかったこと(自由回答)

- 議論が進んでいくと最初の意見を遡ったり、途中で新しい意見を言うのが難しい時もあったと感じた。(チャット)
- 言うのがちょっと恥ずかしかった。未来のことを話すのが難しかった。(出向く型)
- 時間が足りない。(対面)



そのほか、今日の「いけんひろば」についての感想を教えてください。

- 自分のもつ意見が周りと比べてどのような立ち位置にあるのかを確認できた。(オンライン)
- 有意義な議論が出来て良かった。良い時間になり、人生への考え方をより豊かなものに広げられた。(チャット)
- 他の世代とも話す機会があるとさらに考えが深まると思った。東京以外でも対面のいけんひろばがあるとうれしい。(対面)